

## 2006 年度

# 北海道IBD **活動報告**

2006 年度の活動は後半で潰瘍性大腸炎の公費助成見直し反対事業が中心となりましたが、これは別項で取上げております。通常の活動を別表に一覧としましたが、これらをふり返って総括しました。

1、病気について学ぶ活動では札幌はじめ旭川、函館で医療講演会が活発に開催され、特に札幌では「外科」をテーマにし、同時に会員の体験発表や専門分野からの講話を組み込むなどの取り組みも行いました。十勝では札幌の講演会のビデオを上映して勉強会をしました。

2、要望別、階層別の集会では「お母さんのつどい」が子どもの病気に悩むお母さんの助っ人集会として年毎に充実し、お母さん以外の役割者も加わって新しいアプローチが開けました。

料理教室は釧路、北見、旭川、札幌でそれぞれ工夫を凝らしておこないました。

3、「ブックレット」は4月と10月にシリーズ2号3号を出版しました。これまでにシリーズ1号「付き合い方」は2100冊、2号「若者の就活&就労」1000冊、3号「支える人たち」1200冊を販売し、会員だけではなく広く病気に悩む人々を励まし、共感を集めることができました。

会計的には2007年に入って以降黒字転換となり、在庫は売れただけ利益となります。

本を読んで会に入る方も出ています。医療が進歩して病気を持ちながらそれなりの生活を送れるようになった今、体の状態を良く維持しながら社会人として学生として生活するための「生活応援歌」の存在意義は大きなものと思います。

4、機関誌に新シリーズ「北海道難病連の部会紹介」掲載が始まりました。IBDに限らずさまざまな難病があり患者会を作っています。相互に励ましあい力をもらうことも大事な活動です。初年から始まった「北海道IBD 諸国巡り」も好評継続中です。

5、組織を誤りなく運営するために「全道役員研修会」を行いました。すべての支部の代表を含め 14 人の参加という熱心な勉強会で運動を深く学びました。



全道役員研修会

6、06 年度の新入会員は 38 名です。年度末の会員数は 565 名(会の発足以来の累計は 1005 人)です。諸集会の参加者は累積 407 人(総会 145、新入会員オリエンテーション 19、レク交流会 82、支部の集会 115(内数)などです。IBD 会館での相談件数は 21 件、IBD 会館は毎週木曜日に活動しました。

北海道難病連の募金箱は現在 19 箇所、31 個が北海道 IBD によって運用されています。札幌では文教堂書店チェーン、南平岸のパンのパネテリア、札幌厚生病院においてあります。回収には運営委員らが年に 2 回お店に出向きます。合わせて年間 10 万円以上になり、その 50%が会に還元されます。

今年度の「JPA 国会請願署名」は 2 月末に集約しましたがお陰様で署名 1675 筆、30000 円（2005 年度 2002 筆、86800 円、2004 年度 1937 筆 83800 円、2003 年度 3043 筆 160250 円）が集まりました。署名募金が続いたためこちらは低調でしたが、皆さんの奮闘に心から感謝します。募金はいったん JPA に上納し 20%が還元され請願行動旅費などに使います。

北海道難病連協力は現在 75 口の会員です。資金面で難病連の活動を支えるもので、部会の会費とは別ですが、50%が還元されます。

北海道からの助成金が 3 年連続 10%、さらに今年度は 25%と大幅に削られたため、難病連の活動は困難を極めています。より多くの方の入会をお願いします。